

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2374500599		
法人名	株式会社ボーベルカンパニー		
事業所名	グループホームひだまりの家 (くつろぎ1階)		
所在地	愛知県尾張旭市旭ヶ丘町旭ヶ丘5756の2		
自己評価作成日	平成28年 9月 2日	評価結果市町村受理日	平成29年 4月 7日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kajgokensaku.mhlw.go.jp/23/index.php?action=kouhou_detail_2016_022_kani=true&JigyouCd=2374500599-00&PrefCd=23&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 中部評価センター
所在地	愛知県名古屋市中区左京山104番地 加福ビル左京山1F
訪問調査日	平成28年10月25日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

自然に囲まれた静かな立地を活かして、花や野菜を育てたり、外出したりと季節の移り変わりを肌で感じながら毎日を過ごしていただいています。
お花見や夏祭り、紅葉狩りやもちつき、郷土の風習でもあるおこしの作りなど、季節の行事を行っており、その中でも、夏祭りやもちつきなどは、近隣の子どもたちが多数参加され、交流の機会となっています。
利用者のご家族とも、行事に参加していただいたり、食事会などを開いたりして交流の機会を持っています。又遠方にご家族の面会が希薄な方については、職員がFAXや手紙のやり取りなどを行い、安心していただいています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

基本理念は『我が家のようにくつろげる、やすらぎのある生活を支援する』であり、ユニット理念である1F「くつろぎ」2F「やすらぎ」にちなんで、ユニット名を1F「くつろ樹」2F「やすら樹」としている。利用者・職員が理念の下で共に生活をし、家族としての日常を送る事を目的としている。また、地域社会において利用者が住み慣れた町のサービスを継続的に利用できるよう、病院や理・美容室、スーパー等を利用している。これらの理念に対しての取り組みを、ホームページでも宣言している。
これらの取り組みに対して、家族アンケートに『きめ細かい対応で本人も穏やかな毎日が送れ…』『本人の体調面・感情面について細かく親身になって…』『母の状態を見て少しでも過ごしやすいう…』『家族の願い事を良く聞いてくれる…』と称賛の言葉を頂いている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25) ○	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19) ○
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38) ○	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20) ○
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38) ○	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4) ○
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37) ○	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12) ○
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49) ○	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う ○
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31) ○	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う ○
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28) ○		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「我が家のようにくつろげる、やすらぎのある生活を支援する」という、施設の理念を常に意識し、実践できるように心掛けています。	理念『我が家のように・・・』をパンフレットの中央に明記し、キーワードを解説している。重要事項説明書にも明記し、玄関に掲示し、職員はじめホームに関係する方々にも理念の周知を図っている	理念は周知され、職員が個々の思いを持って実践している。理念を展開したホームの目標(年次・月次)を掲げ、職員が同じ方向に進むベクトル合わせを期待したい。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	夏祭りや花火大会、もちつきなどの行事に地域の方々に参加していただいたり、地域の野外清掃に参加するなど、交流の機会を持つようにしています。	ホームの主な行事(夏祭り・おこしもの作り・餅つき等)はチラシを地域にポステイングし、多くの方の参加を得ている。町内清掃や地域行事(どんと焼き等)にも参加し、双方向の交流がなされている。	ホーム実施のアンケートにある『情報の発信源になる事』を受け、地域の方々を啓発して地域へ向けた情報を発信し、認知症の地域拠点としての役割を担う事を期待したい。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	中学生の職場体験の受け入れや、市内のAED設置施設への登録、認知症サポーターのいる施設への登録を行い、地域に向けての活動を行っています。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議では、運営報告会や各種行事と併せて開催したりと、開かれた施設となるように取り組んでいます。	市・長寿課、市議員、町内の方、家族、管理者のメンバー構成で、年間6回開催している。ホーム行事を兼ねて開いたり、市職員の『介護保険』の講話を入れたり、参加者の興味を得る工夫がなされている。	地域の重鎮な方々の参加が得られているので、ホームの報告に留まらず、ホームの課題をまとめ、議題として継続議論して真の成果の出る事を期待したい。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市役所の担当者とは、相談や空室状況の案内、情報交換などを行い、連携を取っています。	運営推進会議に必ず長寿課の職員が参加し、ホームの状況は良く理解されている。日頃から空き情報の報告や、市からの研修の知らせ等のやり取りがあり、市主催の事業所連絡会での情報も把握している。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	引き続き、身体拘束を行わないケアを実践しており、1階の玄関には施錠をせずに、利用者が自由に入出入り出来ている。	ホーム玄関は開錠している。エレベーターと階段室が安全のため施錠されているため、2階利用者が外に出る際は職員が付き添って見守り介助をしている。法人の研修会は、スピーチロックも含めた身体拘束を学ぶ機会ともなっている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	認知症の基礎知識の勉強会を行い、その中で虐待についても再度学ぶ機会を持ち、全職員が虐待への共通した認識を持つようにしています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見制度の資料を回覧したりと、全職員が制度についての知識を共有できるようにしている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居の相談を受けた時点から、疑問点などには分かりやすく説明を行っている。また、運営報告会などで、変更点などの説明を行っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご意見箱を設置したり、運営推進会議や、各種行事、面会の際などに、いつでも意見を伺えるようにしており、できる限り運営に反映できるように努めています。	日常の来訪・家族会・事業報告会・運営推進会議・各種行事(夏祭り・餅つき・演奏会)等、家族から意見を聞く機会は多くある。家族アンケートには『家族の願いを良く聞いてくれる』等、全幅の信頼がある。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員会議や毎日の申送りなどで、いつでも意見を言える環境を整えています。また、管理者を通じて、代表者へも意見や提案ができるようにしている。	ユニット毎のミーティングはその都度行い、職員の意見の聞き取りを行っている。職員の提案から『離床センサーの設置』『夜間のポータブルトイレの利用』等が具体化されている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者が施設を訪れることも多く、職員へ直接声を掛けられ、職員の声を聞いている。研修への参加も積極的に支援しており、就業環境への配慮を行っています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内の他施設での研修を行ったり、全社研修を行ったりしています。また、外部の研修への参加も支援している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	外部研修への参加での交流の機会を作っています。 また、参加はなかったが、市内の他のグループホームへ行事の案内を出して交流の機会を作れるように取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	生活歴アンケートを利用して、利用者の要望等をより明確にできるように努めており、信頼関係を築いている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前の相談の段階から、できるだけ要望を聞きとり、安心していただけるよう取り組んでいます。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居前、入居時に、ご本人とご家族が必要としている支援をできるだけ聞き取り、どのように支援をしていくのかをスタッフで検討を行っています。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	その方のできることを、できるだけやり続けていただけるように考え、一方的な介護にならないように工夫しながら支援をしています。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	できるだけ家族との関わりを続けて行っているように、ご家族が参加できる行事などを計画したり、ケアプラン作成時には、ご家族へアンケートを取り、共に支援していく関係を作っています。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	面会や電話などで関係を持ち続けられるように支援を行っています。 外出の際に、なじみの道を通って話しを聞いたりしています。	職場の同僚が来訪して喫茶店へ同行したり、飼い犬を譲った友人から電話があったり、弟子が経営する美容室に通ったりと、馴染みの人や馴染みの場所への関係が途切れない様に支援をしている	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の交流ができるよう、日頃から職員が間に入り関わりが持てるようにしています。 外出の際なども、ユニット関係なく交流が持てるような支援を行っています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院退所された利用者の病院退院後について、相談に乗り、系列施設への入所に至った例もあり、できる限りのフォローをしています。また、行事の案内を送ったり、電話で連絡を取っているご家族もいます。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご自分で意思を表せる方には、話を聞き希望を把握するように努めています。また、意思を表せない方には、ご家族から話しをお聞きして、本人本位となるような支援を心掛けています。	あまり喋らない利用者には、それまでの生活歴・習慣を参考に質問を投げかけ、会話の中で意向の把握に努めている。利用者の表情・様子から思いを探り、職員間で共有して思いの実現に取り組んでいる。	利用者が輝いていた時代を思い出させるインパクト(当時のアルバム・新聞・ポスター・歌謡曲等)を積極的に提示し、思いを引き出す誘い水になる事を期待したい。
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	生活歴アンケートを基に、その方のこれまでの暮らしをサービスにつなげられるようにしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	その方の、現在の状態を把握して、その方にあった支援ができるよう、食事の提供方法や移動手段などを職員同士で話しあい、ご家族とも相談しながら適宜行っています。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	職員間での情報の共有を行い、ご家族からもアンケートで要望等を聞き取り、介護計画に反映させています。	朝の申し送りの時間にカンファレンスを行い、職員意見を集約して現状に即した計画になるように努めている。年1回の計画見直し時には、家族の意見を再度確認して介護計画に反映させている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護記録表に、各利用者に対するその日の気づきを記入し、職員間で共有することで、個別の支援を行えるようにしています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	介護保険の更新に係る手続きの代行や、その他ご家族からの要望があれば柔軟に対応するようにしています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	町内の催しや野外清掃に参加したり、地域との関わりを持つ事ができるように、支援をしています。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	提携医院以外のかかりつけ医へも、付添いや送迎を行っており、適切な医療が受けられるよう支援を行っています。	看護職員が日常の健康管理を行い、ホーム協力医が月2回往診している。従来のかかりつけ医へも職員の付き添いや送迎を行っている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	常勤の看護師が異動となったが、非常勤の看護師2名を採用し、適切な受診や看護を受けられる体制を継続している。また、他の事業所の看護師も緊急時には対応してもらえるような連携体制ができています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	利用者の入退院時には必ず職員が付き添いをし、病院との情報交換を行っています。また、病院のソーシャルワーカーとも、連絡を取り合い、関係づくりを行っています。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	ご家族からは、終末期の希望を聞き取っており、事業所としてできることを明確にしています。また、消防署の救急隊とも延命処置に関するの情報提供を行っています。	入居時に、医療行為が発生しない限りホームで看取りまで行うとの方針を伝えている。その時が来たら協力医・家族・管理者で話し合い、家族の思いがある限り支援を行う考えである	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	救命法の受講や、事故発生時の対応についての勉強会などで、全職員が対応できるようにしています。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の防災訓練の実施や、災害時伝言ダイヤルの使用方法をカードにして家族に配布したり、災害時の対策を行っています。	夜間想定も含め、年2回避難訓練を行っている。通報・消火・避難誘導の訓練を行っている。1階ユニットは駐車場へ避難し、2階ユニットはベランダで待機して救助を待つ事としている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一部の職員には、プライバシーへの配慮が行き届かないことも、時折見受けられますが、気づいた他の職員がフォローするようにし、利用者の自尊心を傷つけないよう配慮をしています。	業務にとらわれず、利用者のペースで生活できる事を支援し、利用者の言葉に耳を傾けて一人ひとりのその人らしさを大切にしている。遠過ぎず近過ぎずを心がけ、言葉使いにも注意を払っている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	意思表示がはっきりとできる方に対しては、その方の意見を尊重して、決定していただいています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	個別に買い物など外出をしたりしている。また、タイムスケジュールにとらわれずに、その日その日の状況に合わせて、生活していただいています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	髪の毛を染めたい方には、職員が毛染めを手伝ったりしている。外出の際などには、いっしょに着て行く服を決めたり、おしゃれに気を使うことを支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の準備や片付けは職員が行っているが、流しそうめんや鍋、お好み焼き、手巻き寿司など、ご家族と一緒に楽しんでいただく機会を作っている。	配食材業者を活用し、バランスに配慮した食事を提供している。利用者の希望メニューは通常のメニューに上乘せしたり、行事食や家族支援の夕食で叶えている。年2回程度、少人数に分かれて夕食に出かける。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	ご自分のペースでご自身で食事していただく事を基本に、摂取量が少なかったり、水分量が少なかったりした場合には、介助を行ったり、補助的な栄養分をとっていただくようにしています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	各利用者の状態に応じて、口腔ケアの支援を行っています。必要に応じ、提携歯科医院による口腔ケアを実施しています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	その方の排泄の自立度などに合わせて、下着やパッド・おむつ類の検討を行い、選択しています。	車椅子利用者も含め、出来る限りトイレでの排泄を支援し、支援方法は職員ミーティングで話し合い、声かけのタイミングや夜間のポータブルトイレの活用等、個々に適した支援となる様取り組んでいる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	医師や看護職と相談して、食形態の変更や内服薬などを検討し、個別の対応を行っています。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	一時期、職員の手が足りず、入浴のペースが乱れることがあったが、現在は、3日毎のペースで入っていただいている。外出などで、入浴できなかった方に対しては、その前後で入浴していただいています。	3日に1回の入浴を基本とし、二つのユニットが別日に入浴提供する事で拒否者や体調不良の時は別ユニットでの対応を可能にしている。車椅子の利用者も含め全利用者が湯船に入るように支援している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	食事や入浴の時間にとらわれず、その方の状況に応じて、時間をずらし、しっかりと休息できるように支援を行っています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方薬の変更があった場合には、看護職員が連絡ノートに詳しく記し、全職員が把握をしている。また、処方薬の内容はファイルしており、いつでも確認することができる。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	おしぼりたたみや洗濯物たたみなど、役割が自然とできています。畑仕事でも、できる範囲で職員と協力して行っています。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	敷地内の花壇や畑へ出て行かれたり、喫茶店や花見などの季節の行事で外出したり戸外へ出掛ける機会を作っています。また、ご家族と外出される方もいらっしゃいます。	日常的に近隣のスーパーに買い物に出かけたり、喫茶店に出かけたり、玄関のベンチで外気浴を楽しんだりする利用者がある。ドライブで花見(桜・コスモス・バラ・紅葉等)に行き、季節を感じている。	家族アンケートで最も厳しい評価を受けた項目である。利用者の外出状況(日常の外気浴・近隣の散歩等)を『便利』でクローズアップし、より理解されるように伝える工夫を期待したい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご家族やご本人と相談し、必要な方にはお金をお預かりして、使用できるようにしていますが、お金を盗られたという被害妄想のある方には、ご家族とも相談して、手元には置かないようにしたケースがあります。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族や友人からの電話をつないだり掛けたりすることを支援しています。また、手紙のやり取りもできるようにしています。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節ごとに、利用者とともに掲示物を作成し飾ったり、懐かしい音楽を掛けたりして、居心地よく過ごしていただけるように工夫をしています。	緑豊かな閑静な住宅地に立地し、裏庭にはウッドデッキがあり、花壇では利用者と職員と一緒に花を育て、長閑な生活空間が築かれている。季節の飾りの施されたリビングには写真アルバムが置かれ、来訪者に日常の様子を紹介している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共有空間では、自然とその方々の定位置みたいなものができ、利用者同士が居心地の良い場所を作られているようです。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	昔、陶芸をされていた方の部屋には、その方がつくられた作品を飾ったり、お孫さんが部屋を飾って下さる方もいらっしゃいます。	冷蔵庫に好みのおやつを保管している居室、得意な手芸作品で埋め尽くされている居室、家族写真が溢れんばかりに飾られた居室等、個性溢れる居室は利用者の生活歴そのものである。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレの位置をしっかりと認識できていない方に対し、居室の前にトイレへの矢印をつけたり、大きく表示をしたりして、一人でもトイレへ行けるような工夫をしています。		

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2374500599		
法人名	株式会社ボーベルカンパニー		
事業所名	グループホームひだまりの家(やすらぎ2階)		
所在地	愛知県尾張旭市旭ヶ丘町旭ヶ丘5756の2		
自己評価作成日	平成28年 9月 2日	評価結果市町村受理日	平成29年 4月 7日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/23/index.php?action=kouhyou_detail_2016_022_kani=true&JigyosyoCd=2374500599-00&PrefCd=23&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 中部評価センター		
所在地	愛知県名古屋市長区左京山104番地 加福ビル左京山1F		
訪問調査日	平成28年10月25日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

自然に囲まれた静かな立地を活かして、花や野菜を育てたり、外出したりと季節の移り変わりを肌で感じながら毎日を過ごしていただいています。
お花見や夏祭り、紅葉狩りやもちつき、郷土の風習でもあるおこしもの作りなど、季節の行事を行っており、その中でも、夏祭りやもちつきなどは、近隣の子どもたちが多数参加され、交流の機会となっています。
利用者のご家族とも、行事に参加していただいたり、食事会などを開いたりして交流の機会を持っています。又遠方においてご家族の面会が希薄な方については、職員がFAXや手紙のやり取りなどを行い、安心していただいています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	我が家のようにくつろげる、やすらぎのある生活を支援するという施設の理念を意識し、利用者と共にゆったりとした雰囲気の中で生活を共にしているという意識を持ち実践できるよう取り組んでいます。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	季節の行事(夏祭り、もちつき等)に、地域の方にも参加していただいたり、地域の野外清掃へ利用者と一緒に参加するなどして交流を持てるよう努めています。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の看護福祉養成学校、看護学校より実習生の受入れ、中学生の職場体験などで認知症への理解に向けて活動を行っています。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営報告会や各種行事と併せて開催したり、地元の市議員の方にも参加していただき、運営への助言をいただいたり、行政への養母王を伝える機会を持てるようになりました。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	市役所の担当者とは情報交換などを行い、協力関係を築いています。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束の研修が年間で何度か取り上げられるので参加して、自身のケアを振り返る機会としています。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待に関する研修を行い、未然防止のために虐待防止に関するマニュアルを作成し、認知症についての基本理解を深めています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在は成年後見制度を活用されているご利用者様はいません。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には、あらかじめ契約書や同意書類に目を通していただき、説明をして納得していただいている。また、疑問点があれば、いつでも質問を受け付けています。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族会、運営推進会議で、ご家族からの要望を伺ったり、計画作成時に、アンケートで要望を伺ったりし、要望があれば会議を経て運営に反映させています。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員会議や、毎日の朝礼の中で、職員からの意見を聞いている。また3ヶ月に一度、法令遵守会議で管理者が集まり、施設の問題点や職員の意見を反映させる機会がある。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者や管理者へはいつでも相談出来るようになっています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人でも、年度の研修計画を作成し研修の機会を設けています。外部の研修への参加を支援しています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	事業者連絡会への出席や施設部会への参加などで、地域や同業者間の連携を今後の取り組みとしていきたい。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人から直接要望を聞くことは、困難な場合が多いのですが、ご家族には生活歴アンケートに協力していただき、ご本人の要望を探っています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前の段階から、できるだけ要望を聞き取り、安心して入居が迎えられるようにスタッフ間での準備をしています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居前や入居時にどのような要望があるのかをお聞きして、対応が難しい場合には代替えとして何が出来るのかを考えていきます。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ご本人のできる事を尊重して、日常の家事や買い物など一緒に生活しているという実感が持てるように心がけています。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族には面会の際などに、気軽に相談してもらえるような雰囲気を作り、気持ちに寄り添った言葉かけを心がけています。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	昔からのお友達と出掛けたり、電話を取り次いだりと、関係が続けられるように心がけています。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	気の合う人と席が隣り合うように工夫をしたり、皆でできるレクリエーションへの参加を促したりしています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	問い合わせがあった時には以前の資料を調べて、できるだけフォローするように努めています。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	要望を言える方については、出来る限り実現できるよう努めており、言えない方については、ご家族からその方の生活歴などを聞き取り、要望を把握するよう努めています。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所時に、ご家族様に生活歴アンケートを任意でご記入いただき、入所後は日々の会話の中でニーズを把握するようにしています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	心身の状態の変化や、有する能力の把握を、毎日の申送りやスタッフノートで職員全員が共有できるように努めています。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	介護計画の作成・変更の前には、ご家族様にアンケートを送付し、職員間の日々の申送りの中で必要なサービスを汲み取るようにしています。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護記録表を利用して、日々の心身の状態を全員の職員が把握し、統一したケアができるような介護計画を作成します。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	病院受診や買い物の付き添い、散歩等の外出支援を行い、個々のニーズにできる限り対応しています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	2ヶ月に1回、隣市にある美容室のスタッフに来てもらい、出張理美容を行ってもらっています。地域のボランティアさんに声を掛けて楽しみのある生活を支援できるようにしています。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	事業所が提携しているかかりつけ医以外にも、利用者が他の医院を希望された場合には、受診に付添ったりと、適切な医療が受けられるように対応しています。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	介護職から看護師への報告だけではなく、それぞれの立場で医療や他職種への連携が図れるようにしています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入退院時には、必ず職員が付添い、病院看護師との連携を取っています。また、提携医にも適宜報告をし、退院後の連携がスムーズに行われるような支援を行っております。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入所時には終末期の要望を伺っておりますが、入院などで病状が重篤化した折には再度意向を確認し、医師を交えたカンファレンスを行って本人、家族の望んだ終末期が迎えられるようにサポートします。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	年2回の消防訓練や、事故発生時の対応についてのマニュアルを整備し実行しています。また急変時に備えてAED講習も定期的にとり行っています。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	地域との協力体制はまだ希薄であり、今後の取り組みも未確定ですが、事業所全体での取り組みとして、消防訓練や救命訓練を行っています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	男性職員に対して拒否のある利用者様の対応は、女性職員で対応するなど、個別の対応に留意しています。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ご自分で服を選んだり、なじみの美容師さんを指名するなど、ご本人の思いを表していただけよう働きかけています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	職員の都合に合わせたケアにならないよう、利用者様の希望を引き出せるような会話を心がけて、気持ちに沿った日常を支援していきたい。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	本人がやる気になるような会話を心がけて、衣服や身だしなみを自分らしくできるように支援しています。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	刻み食やミキサー食を提供している利用者に対してはメニューを説明して、食事を楽しみにしていただけるようにしています。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	利用者様全員の毎日の食事量を記録し、摂取量が心配される方には水分、尿量までも記録報告して、看護師を通じて医師とも連携しています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	一人一人にあった口腔ケアの方法を職員間で話し合い、ご自分でできない方には職員や看護師が介助しています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄の失敗を減らすためにも、排泄パターンを職員間で共有し、声掛けを行ったり、必要であればおむつやパットを使用して、その方にあった排泄方法を検討しています。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	医師と相談し、緩下剤の処方で調整したり、排便チェック表を作り、規則正しい排便ができるように心がけています		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	3日に1度という日にちの決まりはありますが、体調などで入浴ができなかったり、体を汚してしまった場合には、個別でシャワー浴したり、他の階での入浴日を利用していただく事もあります		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	朝食の時間に起きれない方は食事時間をずらしたり、入床の時間も個々の生活に合わせて、できるだけ利用者の意向に沿うようにしています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	職員が一人一人の服薬についての知識が持てるよう、ミーティングで議題にしたり、薬の副作用についての関心が持てるようにしていきたい。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	毎日のおしぼり巻きを、役割としてやっていたり、洗濯物たたみなどをお願いする方もいます。自分で買い物をしたいという利用者様と出掛けたり、家族と外出したいという方への外出支援もしています。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	近所を散歩したり、一緒に買い物へ出掛けたりしています。立地から、坂道が多く、お店が近くにないので、車で出掛ける事がほとんどです。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご自分で金銭管理ができる方には、ご自分で管理していただき、必要なものがあれば、一緒に買い物に出掛けたり、職員が代わりに買ってきたりしています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人から、電話がしたいと言われれば、電話していただいたり、携帯電話を持っていられる方もいます。外部からの電話も、本人におつなぎして、お話していただいています。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有空間はできるだけ清潔にし、季節の風や光を取り込み、快適に過ごせるよう配慮しています。季節ごとに職員とともに作成した作品を展示したりと楽しみのある生活を工夫しています。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	その方の、希望によって、ソファでくつろぐ方、食事席で職員と会話したり、居室で一人で過ごされる方と、それぞれの時間の過ごし方で、暮らしていただいています。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご家族様が持って来られた馴染みの品なども飾り、居心地の良い空間を作っているよう整理整頓に努めています。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	物の置き場所を決めて、動線に物を置かない、トイレの場所を明記する、洗面台に口腔ケアの準備をしておきスムーズに口腔ケアが行えるなど、能力に応じた生活ができるように工夫しています。		